

# 岐阜から発信！伝統の味・新たな提案

日本のほぼ中央に位置する岐阜県。7つの県に囲まれた数少ない内陸県の1つである同県は全国7位の広さを誇り、コメや野菜も産産物の生産をはじめ、肉牛・乳牛の飼育、鮎魚や川魚の養殖漁業も各地で営まれてきた。また、これらの原材料を加工した食品についても、数多く土地の名産・産品を生み出してきた。そんな岐阜の中から、県外や海外市場への進出、あるいは新たな事業領域への挑戦など、活発な動きを見せる企業も目立ってきた。今後5年間の商品づくりの柱のひとつが、「コメ」だ。

今年2月10日、名古屋市内のホテルで岐阜県産コメの産産物展示会が催された。会場には飛騨・美濃エリアを中心とする展示品が並び、

## 下呂発祥の「奇跡の米」

### ブランド磨き続け15年



「龍の瞳」認定米2kg

P問題ながらコメの生産・流通にも今後大きな影響を及ぼすであろうと予想されるが、たかみち米、おいしく、安全・安心な米作りに真摯に向き合っているのが重要なポイントだ。今井隆社長は強調する。2月下旬に開かれた生産者大会でも「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。



今井社長

「龍の瞳」は、稲の穂がまるで龍の瞳に似ていることから命名された。大粒でコシじかりの約1.5倍もあり、粘り、弾力に優れ、甘み、香りが最大の強み。栽培期間中は農薬不使用、または通常の農薬使用量の3分の1程度の低用量のみで栽培。さらに有機肥料だけで作られているため、農薬の残りや重金属の検出がほとんどない。生産者大会でも「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。

とじた55社が出展。生鮮食品や加工食品をはじめ、乳製品、調味料、コメ、粉製品、麺、パン、飲料、西洋菓子も品目を揃える。たわりの果物や野菜が一堂に集結した。同イベントは、岐阜県の食品ビジネスに携わる中小企業振興会の主催で、バイパスとの間接取引も活用する。1人でアトバイス、中小規模でも手回しを打ち合わせするノウハウを積み重ねていくという。

今回、本紙では高山のきんぎょ園産の「龍の瞳」を産産物の代表品として取り上げた。飛騨・美濃エリアを中心とする展示品が並び、

と見ているだろう。2月23日、飛騨金山で開かれた「龍の瞳」生産者大会・栽培技術交流会。約80人が参加。第1種と第2種との出会いが、



龍の瞳技術研究会 生産者大会

部は生産者大会では、今までの活動、うれしかったり、苦労していたり、今後の活動について話を聞いた。井社長が報告されたのは、

「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。大粒でコシじかりの約1.5倍もあり、粘り、弾力に優れ、甘み、香りが最大の強み。栽培期間中は農薬不使用、または通常の農薬使用量の3分の1程度の低用量のみで栽培。さらに有機肥料だけで作られているため、農薬の残りや重金属の検出がほとんどない。生産者大会でも「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。

「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。大粒でコシじかりの約1.5倍もあり、粘り、弾力に優れ、甘み、香りが最大の強み。栽培期間中は農薬不使用、または通常の農薬使用量の3分の1程度の低用量のみで栽培。さらに有機肥料だけで作られているため、農薬の残りや重金属の検出がほとんどない。生産者大会でも「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。

10年間価値を上げず、今井社長は、コメの歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。大粒でコシじかりの約1.5倍もあり、粘り、弾力に優れ、甘み、香りが最大の強み。栽培期間中は農薬不使用、または通常の農薬使用量の3分の1程度の低用量のみで栽培。さらに有機肥料だけで作られているため、農薬の残りや重金属の検出がほとんどない。生産者大会でも「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。

08年、岐阜県下呂市で「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。大粒でコシじかりの約1.5倍もあり、粘り、弾力に優れ、甘み、香りが最大の強み。栽培期間中は農薬不使用、または通常の農薬使用量の3分の1程度の低用量のみで栽培。さらに有機肥料だけで作られているため、農薬の残りや重金属の検出がほとんどない。生産者大会でも「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。

「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。大粒でコシじかりの約1.5倍もあり、粘り、弾力に優れ、甘み、香りが最大の強み。栽培期間中は農薬不使用、または通常の農薬使用量の3分の1程度の低用量のみで栽培。さらに有機肥料だけで作られているため、農薬の残りや重金属の検出がほとんどない。生産者大会でも「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。



「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。大粒でコシじかりの約1.5倍もあり、粘り、弾力に優れ、甘み、香りが最大の強み。栽培期間中は農薬不使用、または通常の農薬使用量の3分の1程度の低用量のみで栽培。さらに有機肥料だけで作られているため、農薬の残りや重金属の検出がほとんどない。生産者大会でも「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。

「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。大粒でコシじかりの約1.5倍もあり、粘り、弾力に優れ、甘み、香りが最大の強み。栽培期間中は農薬不使用、または通常の農薬使用量の3分の1程度の低用量のみで栽培。さらに有機肥料だけで作られているため、農薬の残りや重金属の検出がほとんどない。生産者大会でも「龍の瞳」の歴史と今後の展望について、農業者の思いを込めて話を聞いた。